研究プロジェクト活動報告

アジアにおける仏教および儒教思想にかんする比較日本学的研究

①趣旨：アジアにおいて、仏教や儒教が、思想およびイデオロギーとしてどのように機能していたかを具体的実証的に検証し、その比較思想史的意味を理論的に解明する。

②プロジェクト担当者（センター研究委員）：高島元洋・頼住光子

③学内研究員：

羽入佐和子

客員研究員（学外の大学教員など）：

窪田高明（神田外語大学教授・日本研究所所長）

徐翔生（台湾・国立政治大学専任助教授）

長野美香（聖心女子大学専任講師）

松下みどり（相模女子大学非常勤講師）

中本梅衣（暢素梅）（法政大学非常勤講師）

大久保紀子（本学非常勤講師）

④活動経過：

４月以降、月に２ないし４回のペースで研究会を開いている。主な出席者は、大久保紀子、長野美香、中本梅衣（暢素梅）である。稲葉黙斎『先達遺事』『墨水一滴』の注釈作業を中心にして、本書の記事から江戸後期の儒学が具体的にどのようなものであったかを考察する。

刊行物

<u>高島元洋</u>

・「近世日本の合理主義（Le rationalisme dans le Japon pré-moderne Tradui par Matthias HAYEK）」、『お茶の水女子大学「魅力ある大学院教育」イニシアティブ〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成　平成18年度　活動報告書　シンポジウム編』pp.227-233、仏語訳pp.234-241、2007年３月

・「仏（感覚可能な世界）・仏性（感覚不可能な世界）と仏向上（さとり）―道元の意識構造について」『倫理学年報』56、pp. 259-268、2007年３月

<u>頼住光子</u>

・「親鸞における「自己」と「他力」―その連続性と非連続性をめぐって―（京都フォーラム報告書掲載予定）

・「道元と親鸞の「仏性」観をめぐる比較思想的探究」（『峰島旭雄先生傘寿記念論文集』掲載予定、2008年３月刊行予定）

・「中国禅宗の因果観に関する一考察―「罪性空」をてがかりとして」（お茶の水女子大学『人文学研究』第四巻、掲載予定、2008年３月刊行予定）

・「道元の思想について―『正法眼蔵』をてがかりとして」（東京大学仏教青年会『仏教文化』掲載予定）

・「道元の思想について―『正法眼蔵』をてがかりとして」
（東京大学仏教青年会講演、2007年11月９日、東京大学仏教青年会、東京）

<u>大久保紀子</u>

・「稲葉黙斎の『先達遺事』の特質について」（お茶の水女子大学『人文学研究』第四巻、掲載予定、2008年３月発行予定）

<u>長野美香</u>

・「内村鑑三の信仰」（苅部直・片岡龍編『日本思想史ハンドブック』新書館、2008年１月刊行予定、所収）

<u>徐　翔生</u>

・「古代日本人の死生観―『古事記』に見られる黄泉国をめぐって」（台湾・国立政治大学外国語文学院『外国語文研究』第五号、pp.89-110、

2007年１月）

欧米における日本学　――日本美術研究を中心に――

①趣旨：欧米における日本美術研究に関する方法論の分析的考察を行う。欧米の研究者あるいは芸術家がどのように日本の美術を解釈してきたかを明らかにしながら、彼らの残した言説（内容、文化的背景、方法論）を分析し、日本国内での研究と比較しながら検討し、その特質を捉える。

②プロジェクト担当者（センター研究委員）：ロール・シュワルツ=アレナレス

③学内研究員：

秋山光文（文教育学部人文科学科学部教授）

客員協力員（学外の大学教員など）：

馬渕明子（日本女子大学）

山梨絵美子（東京文化財研究所）

クリストフ・マルケ（フランス国立極東学院東京支部代表・フランス国立東洋言語文化研究所教授）

ジャン＝ノエル・ロベール（フランス国立高等研究院）

ニコラ・フィエヴェ（フランス国立科学研究庁（CNRS）中国日本チベット文明研究センター副所長）

ヴェロニク・ベランジェ（フランス国立図書館東洋写本部学芸員）

④活動経過：

１）2007年５月11日　鹿島美術財団　東京口頭発表：ロール・シュワルツ=アレナレス

「『応徳涅槃図』試論―陰陽道と星辰信仰をめぐる二重のイメージ」

本研究によって、鹿島美術財団賞を受賞。

［参考論文：『鹿島美術研究』（年報23号別冊）、p458-469 鹿島美術財団、2006年11月］

２）2007年７月８日　お茶の水女子大学比較日本学研究センター第９回国際日本学シンポジウム　セッションII

総合テーマ：ヨーロッパにおける日本美術史の成立と発展「―フランス及びイギリスの主要な日本美術コレクションの果たした役割―

企画・コーディネイト・司会：ロール・シュワルツ＝アレナレス

公開講演会：クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究所教授・フランス国立極東学院東京支部代表）

〔十九世紀後半のフランスにおける日本美術史学の黎明期―江戸時代の画譜や『浮世絵類考』から『日本帝国美術略史稿』までの受容〕

セッションタイトル：「フランスとイギリスにおける最初の日本美術コレクションの成立とその役割についての考察」

司会：ロール・シュワルツ＝アレナレス

講演者：鈴木廣之（東京学芸大学教育学部教授）

〔誰が日本美術史をつくったのか？―明治初期における旅と収集と書き物―〕

永島明子（京都国立博物館研究員）

〔フランスとイギリスで愛された日本の漆器特にマリー・アントワネット蒔絵コレクションの成立と日本美術史上の役割について〕

彬子女王（オックスフォード大学東洋研究所博士課程）

〔ウィリアム・アンダーソンコレクション再考〕

ニコル・クーリジ・ルーマニエール（イギリスセインズベリー日本藝術研究所所長、東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻客員教授）

〔大英博物館所蔵　日本の陶器コレクションの歴史〕

全体パネルディスカッション

司会：天野智香（お茶の水女子大学准教授）

３）研究調査：ロール・シュワルツ=アレナレス

研究課題：〔ガストン・ミジョン、ルーブル美術館初の日本美術コレクション学芸員〕

科学研究費補助金：平成19度科学研究費補助

金（基盤 C）
研究代表者：ロール・シュワルツ＝アレナレス
用務先:ギメ美術館附属図書館(フランス)、ルーブル美術館学芸員図書館〔フランス)
主張日程：平成 19 年 7 月 15 日～平成 19 年 7 月 27 日
用務の概要と事業の関連について：
ギメ美術館附属図書館、ルーブル美術館学芸員図書館を訪問するガストン・ミジョン
に関する資料を集め複写した。

4）研究調査：ロール・シュワルツ=アレナレス
研究課題：〔率天往生の思想とそのかたち〕
研究種類:平成 19 度科学研究費補助金(基盤 B)
研究代表者：泉武夫（東北大学文学研究科教授）
用務先：フリーア美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館
主張日程：平成 19 年 11 月 22 日～平成 19 年 12 月 3 日
用務の概要と事業の関連について：
アメリカ合衆国の東洋美術品収集で著名なフリーア美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館において、平安時代から鎌倉時代の仏教美術について調査し、貴重なデータと資料を取得した。

5）2008年 1 月14日～15日 パリ第 7 大学／フランス国立高等研究院 日本学（文学、思想、歴史）
共同ゼミ・発表会（コーディネーター）
担当者：古瀬奈津子、中村俊直、ロール・シュワルツ＝アレナレス（お茶の水女子大学）
Annick Horiuchi（パリ第 7 大学)、Charlotte Von Verschuer（フランス国立高等研究院）

東アジアにおける比較儀礼史の研究

【2006年度】

①趣旨：中国の礼が周辺諸国へどのように受容されていったのかを、日本を中心に究明する。その際中国との比較の視点を重視する。
②プロジェクト担当者（センター研究委員)：
古瀬奈津子
③学内研究員：
野田有紀子（お茶の水女子大学非常勤講師）
学内協力員：
東海林亜矢子（博士後期課程 国際日本学）
矢越葉子（博士後期課程 国際日本学）
重田香澄（博士後期課程 国際日本学）
客員研究員（学外の大学教員など)：
金子修一(國學院大學教授)
妹尾達彦（中央大学教授）
石見清裕（早稲田大学助教授）
稲田奈津子（東京大学史料編纂所助手）
④活動経過：
2006 年 7 月 22 日（土）東アジア比較儀礼史研究会
参加者：金子修一、妹尾達彦、石見清裕、稲田奈津子、古瀬奈津子
2006 年 12 月 8 日(金)比較日本学研究センター第 2 回公開講演会
場所：お茶の水女子大学文教育学部 1 号館 1 階第一会議室
テーマ：「日唐律令制比較研究の新段階～天聖令をめぐって～」
講師：黄正建（中国社会科学院歴史研究所教授）
2007 年 1 月 5 日（金）～ 9 日（火）北京外国語大学北京日本学研究中心とのジョイントゼミ
場所：北京外国語大学北京日本学研究中心
講演 1 ：
テーマ：「藤原道長と摂関政治」
講師：古瀬奈津子（お茶の水女子大学教授）
講演 2：
テーマ：「新しい教科書における対外意識」
講師：張竜妹（北京日本学研究中心教授）
講演 3：
テーマ：「敦煌文書と日本のかかわり」

講師:伊藤美重子（お茶の水女子大学助教授）
報告１：那希芳（北京日本学研究中心・文化専攻）「西村茂樹の国民教育について」
報告２：野田有紀子（お茶の水女子大学非常勤講師）「平安貴族社会の女房装束」
報告３：李青青（北京日本学研究中心・文化専攻）「新渡戸稲造の植民思想～中国観を中心に」
報告４：矢越葉子（お茶の水女子大学博士後期課程）「正倉院文書に見る造寺・写経事業と仏」
報告５：孫莎莎（北京日本学研究中心・文学専攻）「『枕草子』における虚構性」
報告６：重田香澄（お茶の水女子大学博士後期課程）「摂関期公卿の日記の読まれ方・残り方」
報告７：李小頴（北京・文学専攻）「菅原道真の果たした政治的役割について―『菅家文草』の世界を中心に」
報告８：染井千佳（お茶の水女子大学博士前期課程）「古記録にみえる武士の活動」
2007年1月27日（土）東アジア比較儀礼史研究会
参加者：金子修一、妹尾達彦、石見清裕、稲田奈津子、野田有紀子

【2007年度】

①趣旨：中国の礼が周辺諸国へどのように受容されていったのかを、日本を中心に究明する。その際中国との比較の視点を重視する。
②プロジェクト担当者（センター研究委員）：
古瀬奈津子
③学内研究員：
岸本　美緒（お茶の水女子大学教授）（４－９月 客員教授、10月－専任教授）
野田有紀子（お茶の水女子大学リサーチフェロー）
学内協力員：
東海林亜矢子（博士後期課程 国際日本学）
矢越葉子（博士後期課程 国際日本学）
重田香澄（博士後期課程 国際日本学）
客員研究員（学外の大学教員など）：
金子修一（國學院大學教授）
妹尾達彦（中央大学教授）
石見清裕（早稲田大学准教授）
稲田奈津子（東京大学史料編纂所助教）
④活動経過：
2007年10月9日（火）東アジア比較儀礼史研究会
参加者：金子修一、妹尾達彦、石見清裕、稲田奈津子、野田有紀子
2007年1月11日（金）～17日（木）パリ第７大学・国立高等研究院とのジョイントゼミ
場所：国立高等研究院
報告１：野田有紀子（お茶の水女子大学リサーチ・フェロー）
「平安貴族社会における扇と社会的関係」
報告２：矢越　葉子（お茶の水女子大学博士後期課程）
「位署に関する一考察 ―国司関係文書を中心に―」
報告３：重田　香澄（お茶の水女子大学博士後期課程）
「摂関期における先例への依拠のあり方について―寛弘二年脩子内親王着裳をめぐって―」
場所：パリ第７大学
報告１：中村　俊直（お茶の水女子大学教授）
「小林秀雄と一人称小説の問題」
報告２： 西岡　亜紀（お茶の水女子大学アカデミック・アシスタント）
「福永武彦の『死の島』における小説形式の探求」
報告３： 鈴木　朋子（お茶の水女子大学博士後期課程）
「「心霊の修養」における清沢満之の信と知」

報告４： 伴　ゆりな（お茶の水女子大学博士後期課程）
「旧韓国皇室に対する日本の処遇」
報告５： 諸井　彩子（お茶の水女子大学博士後期課程）
「源氏物語の自然観」
2008年３月　比較日本学研究センター第４回公開講演会
場所：お茶の水女子大学文教育学部１号館８階817室
テーマ：「韓国内での日本史研究の概況」
講師：丁　珍娥（韓国・韓日歴史共同研究委員会・専門委員）

哲学、倫理、宗教、科学思想に関する比較思想的研究

①趣旨：日本人研究者とフランス人研究者が協力して、日本と西洋との伝統思想や現代哲学の比較研究を行うことによって、日本思想、西洋思想の特殊性、独自性を浮き彫りにすると同時に、共通点についても理解をふかめる。さらに、人間の存在構造、認識構造の普遍性についても明らかにする。本研究プロジェクトは、フランス・クレルモンフェランのブレーズ・パスカル大学、哲学・合理性研究センターとの共同プロジェクトとなる。
②プロジェクト担当者：頼住光子・ロール・シュワルツ＝アレナレス
③学内研究員：
高島元洋・三浦謙
学内協力員：
吉田杉子（本学人間文化創成科学研究所研究員）
小濱聖子（本学博士課程）
石崎恵子（本学博士課程）
遠藤千晶（本学博士課程）
木元麻里（本学博士課程）
客員研究員：
大久保紀子（本学非常勤講師）
イブ・シュワルツ（エクス・マルセ大学）
ローレン・ジャフロ（ブレーズ・パスカル大学）
エマニュエル・カタン（ブレーズ・パスカル大学）
アラン・プティ（ブレーズ・パスカル大学）
エリザベト・シュワルツ（ブレーズ・パスカル大学）
青柳優子（杏林大学付属看護学校非常勤講師）
④活動経過：本年度は、昨年度フランスと日本にて行ったシンポジウムを通じて各人が得たところを、それぞれの研究活動を通じて発表した。また、今後の活動について打ち合わせを行なうとともに、本年度に本学からブレーズ・パスカル大学に留学する学生、また来年度ブレーズ・パスカル大学から本学に留学する学生の共同指導について検討し、それを通じて共同研究体制を強化した。

刊行物等活動報告

ロール・シュワルツ＝アレナレス

・「ガストン・ミジョン（1861-1930），ルーブル美術館極東美術コレクション初代学芸員 ―日本滞在百周年にあたりその業績を振り返る―」（日仏美術学会25年周年記念シンポジウム「美術史におけるフランスと日本」お茶の水女子大学比較日本学研究センター研究年報2007年）
・『国宝六道絵』　中央公論美術出版 2007年11月（[A propos des Images des Six Destinées (*Rokudō-e*) du temple Shōjuraigōji, Une introduction] (概説)
・「『応徳涅槃図』試論　― 陰陽道と星辰信仰をめぐる二重のイメージ―」（口頭発表、鹿島美術財団　東京　2007.05.11、鹿島美術財団賞受賞）(参考文献：『鹿島美術研究』年報23号別冊、p458-469 鹿島美術財団、2006年11月）
・研究調査「率天往生の思想とそのかたち」（平成19度科学研究費補助金（基盤B)、研究代表

者：東北大学文学研究科教授　泉武夫、用務先：フリーア美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、平成19年11月22日～平成19年12月３日、アメリカ合衆国の東洋美術品収集で著名なフリーア美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館において、平安時代から鎌倉時代の仏教美術について調査し、貴重なデータと資料を取得した。）

・共同ゼミコーディネート「共同ゼミ・発表会」（2008年１月14日～15日、フランス、パリ第７大学 / フランス国立高等研究院　日本学　[文学、思想、歴史])

頼住光子

・「親鸞における「自己」と「他力」―その連続性と非連続性をめぐって―（京都フォーラム報告書掲載予定）

・「道元と親鸞の「仏性」観をめぐる比較思想的探究」（『峰島旭雄先生傘寿記念論文集』掲載予定、2008年３月刊行予定）

・「中国禅宗の因果観に関する一考察―「罪性空」をてがかりとして」（お茶の水女子大学『人文学研究』第四巻、掲載予定、2008年３月刊行予定）

・「道元の思想について―『正法眼蔵』をてがかりとして」（東京大学仏教青年会『仏教文化』掲載予定）

・「道元の思想について―『正法眼蔵』をてがかりとして」
（東京大学仏教青年会講演、2007 年 11 月 9 日、東京大学仏教青年会、東京）

高島元洋

・「近世日本の合理主義（Le rationalisme dans le Japon pre-moderne Traduit par Matthias HAYEK）」（『お茶の水女子大学「魅力ある大学院教育」イニシアティブ　〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成　平成18年度　活動報告書　シンポジウム編』 pp.227-233、仏語訳pp.234-241、2007年３月）

・「仏（感覚可能な世界）・仏性（感覚不可能な世界）と仏向上（さとり）―道元の意識構造について」（『倫理学年報』56、pp. 259―268、2007年３月）

大久保紀子

・「稲葉黙斎の『先達遺事』の特質について」（お茶の水女子大学『人文学研究』第四巻、掲載、2008年３月刊行予定）

青柳優子

・「新渡戸稲造における「修養」と「宗教」」（『比較思想研究』第34号（比較思想学会）2008年３月　掲載予定）

・「新渡戸稲造の植民思想―人間観の観点から―」（『人間文化創成科学論叢』第10巻（お茶の水女子大学）2008年３月　掲載予定）

・「新渡戸稲造における「修養」と「宗教」」（比較思想学会第34回大会　2007.6）

・「新渡戸稲造と教育」（日本宗教学会第66回学術大会　2007.9）

・「新渡戸稲造と道徳教育」（日本道徳教育学会第70回大会　2007.11）

吉田杉子

・「道徳的感性と芸術の視座―シャフツベリとアダム・スミス」（峰島旭編集にて北樹出版から刊行予定）

・「アダム・スミスにみられる道徳的感性についての考察」（日本道徳教育学会第70回大会　平成19年11月18日）

小濱聖子

・「白隠における戒の二重性」（お茶の水女子大学『人間文化創成科学論叢』第10巻、掲載予定、2008年３月刊行予定）

・「白隠の戒観―仏教の本質論に関連して―」（日本倫理学会第58回大会自由課題発表、2007年10月13日、新潟大学）

Yves Schwartz　イブ・シュワルツ

・« Préface » à « Trabalho ： Minas de saberes e valores », pp I à X, édité par le *Nucleo de estudos*

sobre Trabalho e Educaçao, NETE/FAE/UFMG, 2007, sous la direction de Daisy Moreira Cunha.

・« De l'injonction au détour théorique à l'activité, puissance de convocation des savoirs », intervention aux *Journées Intervention & Savoirs, la pensée au travail*, CNAM, Paris, 6/04/2006. Paru dans la Revue Education Permanente, n° 170, 2007, pp 13-23.

・« A short insight upon the philosophical history of the concept of activity », colloque comparatif de l'Université Ochanomizu, Tokyo, 8/12/2006, parus dans les Actes du colloque, Centre d'études japonaises comparatives de l'Université nationale Ochanomizu, pp 41-50, 2007.

・« Le travail blanchi », Entretien avec Yves Schwartz, in Nouveaux Regards, Revue de l'Institut de Recherche de la FSU, n° 37-38, 2007 pp 21-25.

・« Un bref aperçu de l'histoire culturelle du concept d'activité », Revue électronique @ctivités,2007, vol 4 numéro 2, pp 12-133.

・« Les deux paradoxes d'Alain Wisner, anthropologie et ergologie », à paraître dans un ouvrage collectif dirigé par Philippe Geslin.

Emmanuel Cattin エマニュエル・カタン

・*L'Héritage de la raison. Hommage à Bernard Bourgeois,* éd. E. Cattin et Fr. Fischbach, Paris, Ellipses, 2007.

・« L'idéalisme et la vie », *Hegel-Jahrbuch, Das Leben denken*, Berlin, Akademie Verlag, 2006.
« La langue de l'esprit », recueil collectif dirigé par M. Caron, *Hegel*, Paris, éd. du Cerf, 2007.

・« The names of God » (sur Maître Eckhart), publié en anglais par le Centre d'études japonaises comparatives de l'Université nationale Ochanomizu, Tokyo, 2007.

・*Jules Vuillemin. L'Un et le multiple*, Actes du colloque de Clermont-Ferrand (1999), éd. Elisabeth. Schwartz et Emmanuel Cattin, Hildesheim, Olms, 2006. (掲載予定)

・*L'Héritage grec de la métaphysique allemande*, Hildesheim, Georg Olms Verlag, 2008. (掲載予定)

・« Le logos du non-être », à par. dans un vol. sur la philosophie de la nature de Hegel, Libraire Vrin, 2008.（記載予定）

Laurent Jaffro ローレン・ジャフロ

・"La divinisation du social", in Modernité et sécularisation, ed. M. Fœssel et J.-F. Kervégan, Paris： CNRS éditions, 2007, pp. 145-153.

・"Berkeley's Criticism of Shaftesbury's Moral Theory in Alciphron III", in Reexamining Berkeley's Philosophy, ed. Stephen H. Daniel, Toronto： University of Toronto Press, 2007, pp. 199-213.

・"Raison et sentiment. L'histoire des théories du sens moral vue par Jouffroy", in Philosophie écossaise et philosophie française, ed. M. Malherbe, Paris： Vrin, 2007, pp. 137-150.

・"Les objets de l'éducation ： quelle ontologie ?", Revue de métaphysique et de morale, 4 (2007), pp. 429-448.

Elisabeth Schwartz エリザベト・シュワルツ

・*Language and Thought in Wittgenstein's assessment of the contemporary occidental civilization In Actes* de la Session de décembre 2006, Centre d'études japonaises comparatives de l'Université nationale Ochanomizu, Tokyo, 2007.

・Contribution à l'édition moderne des *Cours de l'Ecole Normale de l'An III* pour le Volume Littérature, comprenant la totalité des *Leçons d'Art de la Parole de l'abbé Sicard; édition du texte de Sicard*, Presses de l'Ecole Normale Supérieure.

・*Jean Cavaillès in* Numéro spécial La Philosophie à Clermont 2007 （掲載予定）

・*Le sens et la portée de l'idéalisme allemand dans la philosophie de Jules Vuillemin* . 2007（予定）

・*Les figures wittgensteiniennes du rationalisme： un*

"scepticisme logique"　In　Wittgenstein Etat des lieux, E.Rigal ed. Paris, Vrin , pp139-171 2007 (掲載予定)

Alain Petit　アラン・プティ

・Alain Petit ： "Apophase et hyperbole". PHIER 研究発表　2007年10月18 日 ：

・*L'Héritage grec de la métaphysique allemande*, Hildesheim, Georg Olms Verlag, 2008. co-éd. E. Cattin, A. Petit, E. Schwartz, (掲載予定)

グローバル時代の総合的日本語教育

①趣旨：グローバル時代にふさわしい総合的な日本語教育を模索する。日本学との学際的連携や文化理解教育のあり方、IT利用などについても考察する。

②プロジェクト担当者：森山新（センター研究委員）

③学内研究員：

ナイダン・バヤルマー（モンゴル教育大学講師、言語文化学専攻院生）

学内協力員：

王冲（国際日本学専攻院生）

林美琪（国際日本学専攻院生）

チュオン・トゥイ・ラン（言語文化学専攻院生）

客員研究員：

李徳奉（韓国・同徳女子大学校教授）

徐一平（中国・北京日本学研究センター主任）

許夏珮（台湾・東呉大学助理教授）

ドラージ・土屋浩子（米国・ヴァッサー大学助教授）

河先俊子（フェリス女学院講師）

平畑奈美（中国帰国者定着促進センター講師）

④活動経過：

⑴　３大学ジョイントゼミ

日時　2007年10月19日～24日（５泊６日）

場所　北京日本学研究センター（中国・北京市）

主催　日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成プログラム、お茶の水女子大学比較日本学研究センター、北京日本学研究センター、同徳女子大学大学院日語日文学科

北京日本学研究センター主催の国際シンポジウム「21世紀東北アジアにおける日本研究」、及び日中韓３か国合同ジョイントゼミに参加するため、10月19日から24日までの５泊６日間、本学からは教員４名、院生10名が訪中した。

これまで海外で行われるジョイントゼミは、日韓、日中といった２大学合同によるもので、日本語教育分野では2005年度に韓国・同徳女子大学、2006年度に中国・北京日本学研究センターとの間で開催されてきた。本年度は３か国が一同に会して行われることで、より多角的な視野からの考察が可能となった。また時を同じくして、「21世紀東北アジアにおける日本研究」という国際シンポジウムが行われ、187名にも及ぶ研究者が日本学各分野の研究を発表した。このような場に参加することで、参加した院生たちは、自身の日本語教育・日本語学の分野のみならず、日本文学・文化・政治・経済など、日本学全般の学際的な研究交流の場となったことも評価してよいであろう。

今回国際シンポジウム及び国際ジョイントゼミが日中韓３か国合同で行われたことは決して偶然ではなく、グローバル時代を迎え、日本学研究自体が、国を超えた枠組みの中で多角的視野からなされるべきことを物語っていると言えるであろう。

10月20日（土）　国際シンポジウム「21世紀東北アジアにおける日本研究」

主催：北京日本学研究センター

共催：日本国際交流基金、北京外国語大学、日本人間文化研究機構

後援：日本大使館

◆開会式

◆基調講演

「東アジア地政文化は成り立つか－グローバルとローカルの間の東アジア論」濱下武志（龍谷大学）

「江村北海と漢詩」W. J. ボート（オランダ国立ライデン大学）

「21世紀の中国における日本政治経済研究の現状」易明（天津社会科学院）

◆全体パネルディスカッション

「徳川吉宗の薬種国産化政策と近代的「知」の形成」

笠谷和比古（国際日本文化研究センター）

「東アジアにおける『剪灯新語』の受容」張龍妹（北京日本学研究センター）

「『水滸画』の往還」大高洋司（国文学研究資料館）

「歴史をこえた博物館資源の往還」野林厚志（国立民族学博物館）

「中心・周辺・外郭という概念から見た東アジア」崔官（高麗大学）

◆歓迎レセプション

夜は歓迎レセプションが近郊のホテルで開催された。

10月21日（日）

◆分野別パネルディスカッション

①日本言語分野パネルディスカッション

主題　21世紀における日本語研究の新動向

司会　徐一平（北京日本学研究センター）

パネラー

「中国における日本語研究について」修剛（天津外国語学院）

「言語問題への対応を志向する日本語研究」相澤正夫（日本・国立国語研究所）

「韓国の日本語研究について」全亨式（高麗大学）

「日本語の習得・教育研究への認知言語学の応用可能性」森山新（お茶の水女子大学）

②日本語教育分野パネルディスカッション

韓国編

「中級会話クラスにおけるプロジェクトワークの効果について」倉持香（ソウル女子大学）

「実践的研究を活性化するための日本語教育学の構築」李徳奉（同徳女子大学）

日本編

「学びの主体性を高める協働学習の意識化」野々口ちとせ（お茶の水女子大学）

「学習者の主体性と教師の主導性」岡崎眸（お茶の水女子大学）

中国編

「学習者の主体的な授業参加を導く教師の行動」冷麗敏（北京師範大学）

「学習者の主体性を重んじた日本語教科書をめざして」林洪（北京師範大学）・曹大峰（北京日本学研究センター）・篠崎摂子（国際交流基金日本語国際センター）

「理系の考え方に学ぶ」陳俊森（華中科技大学）

（その他の分野は省略）

◆研究発表・ポスター発表

「日本語教育実習における支援者のふり返りと考察」 池田広子（お茶の水女子大学）

「精読授業にグループワークを取り入れる可能性」楊峻（お茶の水女子大学）

（その他の発表は省略）

◆閉幕式

10月23日（火）　日中韓３か国ジョイントゼミ

中国・北京日本学研究センター、韓国・同徳女子大学校、そして本学の３大学による国際ジョイントゼミが開催された。北京日本学研究センターからは32名、同徳女子大からは８名、そして本学からは９名、総勢50名もの院生が今回のジョイントゼミに参加した。指導教員としては、北京日本

学研究センターの徐一平先生、朱桂栄先生、同徳女子大から李徳奉先生、本学からは私（森山）とRFの池田先生が参加した。今回は参加者人数が多く、４つの分科会に分かれて分科会別の研究発表が行われ、最後に全体会が行われた。

【第一部】全体会（３階多目的ホール）

８：15～８：30　開会挨拶　森山新（お茶の水女子大学）、徐一平（北京日本学研究センター）

８：30～９：30　特別講演「広域日本語教育学構築のありかた」李徳奉（同徳女子大学）

９：30～９：35　記念撮影

【第二部】分科会

◆第１分科会

９：35～10：20　①「中国におけるピア・レスポンスの可能性」

劉娜（お茶の水女子大学大学院）

10：30～11：15　②「交流型学習の現状分析と可能性－総合的日本語教育を目指して－」

西岡麻衣子（同徳女子大学大学院）

11：15～12：00　③「コミュニケーション能力養成の観点から見た日本語教科書のモデル会話―中国の「総合日本語」教科書における相づちとフィラーの扱いを中心に―」張金龍（北京日本学研究センター日本語・日本語教育コース）

14：00～14：45　④「精読授業にグループワークを取り入れる可能性」

楊峻（お茶の水女子大学大学院）

14：45～15：30　⑤「作文過程での内省を促す支援の効果」

高橋薫（お茶の水女子大学大学院）

15：40～16：25　⑥「韓国人の高齢者を対象にした日本語教育の方向」

張榮花（同徳女子大学大学院生）

16：25～16：30　まとめ

（発表者以外の参加者：曾艶、王剛、鄭嵐、李雪）

◆第２分科会

９：35～10：20　①「学習者の個別性に関する研究の必要性―心理類型論的な観点を中心に―」申恩浄（お茶の水大学大学院研究生・同徳女子大学大学院）

10：30～11：15　②「中国の大学における日本語選択履修生のBELIEFSについて―日本語選択科目の改善を考える―」李友敏（北京日本学研究センター）

11：15～12：00　③「学習リソースに対する学習者のビリーフについて」柳川紘子（同徳女子大学大学院）

14：00～14：45　④「中国人日本語学習者における格助詞「に」「で」「を」についての習得研究」冉愛玲（北京日本学研究センター）

14：45～15：30　⑤「第二言語習得において学習者の個人差が学習成果に与える影響」向山陽子（お茶の水女子大学大学院）

15：40～16：25　⑥「中国の日本語教育における日本事情（日本文化・日本概況）教育の実態と課題―北京の大学を調査対象に」張昭君（北京日本学研究センター）

16：25～16：30　まとめ

（発表者以外の参加者：楊雅琳、張舒鵬）

◆第３分科会

９：35～10：20　①「地域に暮らす定住外国人の日本語使用実態―ブラジル人の調査事例を通して―」佐野香織（お茶の水女子大学大学院）

10：30～11：15　②「二言語環境にいる中国語を母語とする子どもの母語保持・育成に関わる要因―母語の認知面に注目して―」穆紅（お茶の水女子大学大学院）

11：15～12：00　③「日本語会話（能力）における中級」

栗飯原美智（同徳女子大学大学院生）

14：00～14：45　④「複合辞の文法化に関する共時的考察―因果関係と逆接関係を表す複合接続

助詞を中心に―」夏瑞紅（北京日本学研究センター）
14：45～15：30　⑤「韓国における同じ漢字を使用する日本語動詞の習得状況に関する一考察」
金世恩（同徳女子大学大学院生）
15：40～16：25　⑥「自他両用法をもつ漢語サ変動詞について」
顧秋利（北京日本学研究センター）
16：25～16：30まとめ
（発表者以外の参加者：森山京子、張卉、鄭新超、劉暁旭、沈燕菲、張慧、魏雲、馬傑萍）

◆第４分科会

9：35～10：20　①「中国人日本語学習者の話題転換の分析」
楊虹（お茶の水女子大学大学院）
10：30～11：15　②「テキストにおける「二人称代名詞」の使用の中日対照研究」
賀文静（北京日本学研究センター）
11：15～12：00　③「日本語学習者のための呼称と呼びかけの連関性研究」
崔祐寅（同徳女子大学大学院生）
14：00～14：45　④「色彩語の意味拡張メカニズムに関する研究―中国語の「赤」「红」と日本語の「赤」「紅」を中心に―」李静暁（北京日本学研究センター）
14：45～15：30　⑤「「呢（ne）」と「だろうか」について」
褚福海（北京日本学研究センター）
15：40～16：25　⑥「日本語における主観性の習得―言い切りの「た」を通して―」
石井佐智子（お茶の水女子大学大学院）
16：25～16：30　まとめ
（発表者以外の参加者：石立珣、楼映青、田双燕、李煥雨、田暁黎、洪傑、王欣、芦茜、方璐）

【第三部】総括（３階多目的ホール）

分科会発表が終了後、各分科会の報告があり、最後に松岡先生の総括でジョイントゼミは締めくくられた。
16：30～16：50各グループの報告（４グループ×５分）
16：50～17：00　総括＆閉会挨拶　松岡榮志（北京日本学研究センター）
17：20～19：30　懇親会

⑵　TV会議システムを用いたジョイントゼミ
日時　2008年１月８日
場所　SCS室（旧人間文化研究科棟５階）
11：20～11：40　研究発表１　麻子軒（台湾大学大学院M1）
「テレビゲームが日本語教育の課外教材としての位置づけ―RPGを中心とした語彙調査の中間発表―」
11：40～12：00　研究発表２　邱〔女微〕〔女亭〕（台湾大学大学院M2）
「共感覚に基づく比喩表現について―「薄い」の多義性をめぐって―」
12：00～12：10　コメント、質疑応答
12：20～13：10　講演　森山新（お茶の水女子大学大学院）
「認知言語学的観点からの格助詞ヲ、ニ、デの意味構造とその習得―中国語を母語とする日本語学習者を中心として―」

⑶　TV会議システムを用いた公開講演会
日時　2008年１月23日
場所　SCS室（旧人間文化研究科棟５階）
講演　「グローバル時代における海外での日本文学の教え方―総合的日本語教育の実践に向けた一案―」ドラージ・土屋浩美（ヴァッサー大学）

日時　2008年１月29日
場所　SCS室（旧人間文化研究科棟５階）
講演　「　　」鄭起永（釜山外国語大学）

近現代日本におけるフランス文化の影響
―文学、思想、芸術の領域において―

①趣旨：明治期以降において、日本の文学者、思想家、芸術家たちがどのようにフランスの文化（文学、思想、芸術など）から刺激を受け、さらに新たな自己の作品創造や思索の糧としたのかを考察する。

②プロジェクト担当者（センター研究委員）：

中村俊直（大学院比較社会文化学専攻）

③学内研究員：

中村弓子（大学院比較社会文化学専攻）

村田眞弓（大学院比較社会文化学専攻）

西岡亜紀（人間文化創成科学研究科研究院研究員）

客員研究員：

金子美都子（聖心女子大学教授）

有田英也（成城大学教授）

岩切正一郎（国際基督教大学教授）

本間邦雄（駿河台大学教授）

④活動報告

平均２ヶ月に一度ほど研究会を開いた。

以下は本プロジェクトに関する構成員の今年度の活動成果である。

中村俊直

「小林秀雄と一人称小説の問題」（2008年１月14日　パリ第７大学との共同ゼミにて口頭発表。さらにこれに加筆修正して報告書に掲載）。

岩切正一郎

１．ジャン･アヌイの戯曲「ひばり」の翻訳。蜷川幸雄演出、松たか子主演により、2007年２月７日～28日にシアターコクーンにて上演された。その後単行本として2007年９月に早川書房より出版された。

２．アルベール・カミュの戯曲「カリギュラ」の翻訳。蜷川幸雄演出、小栗旬主演により、2007年11月７日～30日にシアターコクーンにて上演された。

本間邦雄

〔書評〕ポール・ヴィリリオ著『民衆防衛とエコロジー闘争』（河村一郎・澤里岳史共訳。月曜社刊）『週間読書人』2007年４月20日号掲載。

西岡亜紀

１.「福永武彦『幼年』におけるボードレール――「万物照応」の受容をめぐって―」(2007年６月17日　日本比較文学会第69回全国大会にて口頭発表)。

２.「ボードレールを受容する福永武彦―『幼年』の記憶描写と『万物照応』」（2007年７月28日　第25回ボードレール研究会にて口頭発表）。

３.「福永武彦の『死の島』における小説形式の探求」（2008年１月14日　パリ第７大学との共同ゼミにて口頭発表。

４.「福永武彦の『死の島』における小説形式の探求―交錯する1920年代フランス小説―」（『大学院教育改革支援プログラム　日本文化研究の国際的情報伝達スキルの育成　平成19年度活動報告書　海外研修事業編』2008年３月）

５.「福永武彦『幼年』におけるボードレール―「万物照応」の受容について―」（『比較文学』第50巻、2007年度）。